

# スモールマニアの挑戦

東京都八王子市に本社を置くマイクロニクス（田仲克彰社長）はマイクロ波技術を応用した測定器や検査器のメーカー。通信機器の周波数を測定するスペクトラムアナライザーでは内外三社で世界市場を三分、ETC（自動料金収受システム）用の検査機器では国内市場の九割以上を握る。

## マイクロニクス マイクロ波技術を応用

### 《会社概要》

社 東京都八王子市小比企町2987-2  
話 0426・37・3667  
長 田仲克彰氏  
(たなか・かつあき)  
立 1986(昭和61)年  
従業員数 27人

▽本社  
▽電社  
▽社  
▽設立  
▽従業員数

生産・販売面では特注品の受注やOEM（相手先ブランドによる生産）をコストダウンに活用する。特注品の受注は開発に及ぶ。研究開発では公的な補助金を活用する。



コストダウンの努力は研究開発、設計から生産、営業まで、あらゆる段階に及ぶ。研究開発では公的な補助金を活用する。

スペクトラムアナライザの開発では日本版SBI-R（中小企業技術革新制度）の補助金五千五百萬円を受け、開発費の約四割をまかなった。設計面では回路に工夫を凝らる。

効率の維持・拡大や量産効率を狙う。

## ETC機器で高シェア

は自社ブランドの育成に力点を置いてきたが、「コストダウン効果だけではなく「新技術の吸収にも役立つ」（田仲社長）として、特注品やOEMの受注も重視していく。

岩崎通信機の技術者だった田仲社長が「マイクロ波関連の技術開発に本格的に取り組みたくて」独立したのが十九年前。今でも研究開発の陣頭指揮を執る毎日で、「仕事に割く時間の九割が開発、一割が管理や営業」という。

ここ数年、開発に振り向ける時間が減ってきました。国内外の営業網の整備など経営基盤の確立や、規模拡大を重視し始めたからだ。

ただ「六十五歳までは現役技術者」を自任する田仲社長。大学の研究者とも連携しながら次のマイクロ波応用製品の開発に余念がない。既存製品の投入で「四年後、年商二十億円」を目指す。

「パルス幅アナライザ」（鈴木博人）